

# 新型コロナウィルス(2019-nCoV) IgM/IgG抗体 ワンステップテスト (金コロイド法)

## 核酸増幅検査と組合せた解釈方法

### 核酸増幅検査が陰性の場合

IgM -	IgG -	感染していない、もしくは潜伏期。この場合、疫学的既往歴を考慮する。(14日間で関連した疫学的既往歴がなければ、感染症は除外することができる)
IgM +	IgG -	急性感染期。核酸試験は偽陰性の可能性があり、診断はCTスキャンと組み合わせて行うことが推奨される。もしくはIgM陽性結果がまれに起こる干渉物質が原因の偽陽性の可能性あり。
IgM <sup>weak</sup> +	IgG -	初期の感染を示す。2019-nCoVのウイルス量は少なく、IgG抗体はまだ産生されていない。感染の可能性が低い患者ではヘテロフィリック抗体とリウマチ因子の干渉が疑われる。
IgM -	IgG +	過去の感染症とウイルスが除去されたことを示す。患者は回復期かもしくはCOVID-19から回復している。(IgG抗体は、長期間体内に存在する。)診断はCTスキャンと組み合わせて行うべきである。
IgM +	IgG +	最近の感染症を示す。核酸試験は偽陰性の可能性あり。診断のためにCTスキャンを組み合わせるべきである。もしくは患者が回復期でIgMがまだ消失していない。

### 核酸増幅検査が陽性の場合

IgM -	IgG -	感染のウインドウ期。IgMやIgG抗体はまだ産生されていない。もしくは、免疫抑制療法や免疫不全症のために患者が抗体を産生できない。
IgM +	IgG -	感染初期には、2019-nCoVのIgMは通常、COVID-19の発症から3~5日後に生成される。
IgM -	IgG +	感染後期でウイルスはまだ排除されていない。
IgM +	IgG +	2019-nCoVによる感染または再感染の活動期。

	感染なし	潜伏期	前駆期	急性期	回復期	治癒
核酸	-	+	+	+/-	- or +(再感染)	-
IgM	-	-/+	+	+/-	+/-	-
IgG	-	-	-	+	+	+

感染状態(危険) ←————→ ウィルスは除去された状態(安全)

### 予期しない結果に対する説明

抗体偽陽性:腫瘍、ヘテロフィリック抗体およびリウマチ因子などの干渉物質が体内に存在している場合があります。

抗体偽陰性:抗体が検査キットの検出限界未満の場合があります。また、抗体を産生できない人もいます。また検査キットの感度は100%ではありません。

核酸偽陰性:検体の品質不良、採取時期が早すぎる、遅すぎる、検査キットの感度が低い等。

### 勧告

一般的に、翌日には2019-nCoV核酸の再検査を行うことが推奨されています。

ハイリスクの人は、核酸を検査し、数回にわたってCTスキャンを受けることが推奨されます。

疑わしい症例は、関連するガイドラインに従って診断または除外するべきです。

### ※注

(1)過去の経験によれば、IgMは抗原への最初の暴露に対する反応で出現する最初の抗体である。その後IgGが産生され、長期免疫や免疫記憶の役割を果たす。2019-nCoV抗体の存在の規則はまだ明確ではなく、人によって状態が異なる可能性があります。

(2)すべての検査キットで、偽陰性や偽陽性を完全に回避することはできません。2019-CoV IgM/IgG抗体の不確実な検査結果については、1~2週間後に再調査し、動的に観察することを推奨します。